

AIDS UPDATE

No.31 2002.4.9

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

新職員のみなさんこんにちは！
エイズ医療対策室です

ブロック拠点病院の役割

エイズ医療対策室は、1997年に院内措置で作られました。厚生労働省が指定したエイズ治療のための中国四国地方ブロック拠点病院としての役割と、院内のエイズ医療の両方の役目があります。スタッフのうち医師は輸血部の高田医師、藤井医師、小児科の畝井医師、西村(裕)医師が担当しています。看護は対策室の中田看護師、他に心理士の喜花、情報担当の大江がいます。外来診療は火曜日と木曜日に原医研内科の外来を使って行っています。院内の講演会、研修会もお引き受けしますのでご連絡下さい。

エイズ検査の受け皿になっています

厚生労働省はエイズ拠点病院でのエイズ検査を促進することを決めました。広島県と本院は契約を結び、検査を希望される方に、1,830円の自己負担で検査を提供することになりました。当然ながら院内の通常の患者さんについては、臨床科で対応して頂くこととなります。案内はパンフレットと、ホームページにあります。連絡先は原医研内科の外来の中田看護師がお受けします。[原医研内科内科 Tel : 082-257-5475]

中四国エイズセンターのHPも見てね

<http://www.aids-chushi.or.jp> です。日本でも有数のアクセス数です。HIV感染者へのケアやサービスについて、情報提供を目的にして運営しています。エイズ関連用語集や、血友病診療の実際などのテキストも掲載されています。

平成13年度職員エイズ研修会の報告
『HIV感染症治療の進歩と
HIV除去精子による体外受精』

去る3月14日の17:30から、病院大会議室で荻窪病院血液科部長の花房秀次先生に来て頂き、講演を頂きました。抗HIV薬による治療効果があり、感染者も子供が欲しいと望む時代になりました。当日の参加者は極めて少なかったのが残念です。当日配布した講演資料のコピーを添付します。

広大病院の感染者数の現状

研修会でも報告しましたが、2002年3月現在の累計患者数は78人になりました。男性は71人、女性は7人です。日本人は66人、外国人は12人です。感染経路別では血液製剤43人、同性間性行為14人、異性間性行為20人、母子間1人です。原医研内科・小児科以外の院内臨床科でHIVと発見されたのは5人です。27人が転居・帰国したため、51人の転帰がわかっています。このうちエイズ発病は19人、死亡は15人(病理解剖10人)です。現在の通院患者数は36人で、血液製剤による感染者を性行為感染者が上回りました。



<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。 [TAKATA, OE]
takata@aid-chushi.or.jp